

Adobe Creative Suite 5 : 主要デザインアプリケーションがもたらす生産性の向上

日常のデザインワークの生産性を高める Adobe Photoshop CS5、Illustrator CS5、InDesign CS5 の主な機能

要旨

このレポートは、Pfeiffer Consulting 社が Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の委託に基づいて実施した市場別ベンチマークプロジェクトの調査結果を報告するものです。

Adobe® Photoshop® CS5、Illustrator® CS5、InDesign® CS5 という 3 つの主要デザインアプリケーションの主な生産性向上機能に焦点を当てて検証を行いました。64-bit サポートが Photoshop のパフォーマンスに及ぼす影響に絞った調査については、別のレポートで取り上げています。

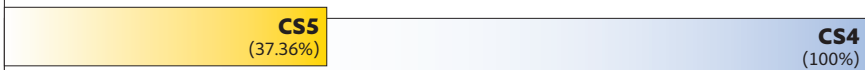
Photoshop CS5 : Photoshop CS5 には、「コンテンツに応じた塗り」をはじめ、デジタル画像編集ワークフローの生産性を従来のバージョンより大きく向上させる機能が採用されています (下のグラフを参照)。

Illustrator CS5 : アドビのベクトル描画およびグラフィックデザイン用アプリケーションには、様々な幅の線や強化されたアートボード、パワフルな遠近描画ツールなど、グラフィックデザインと Web 制作の作業を大幅に効率化する機能が充実しています。

InDesign CS5 : 生産性を飛躍的に高める新しい選択ツールや間隔ツール、非常に効率的な段抜き機能などが加わった最新版の InDesign は、様々なページレイアウト作業を合理化します。

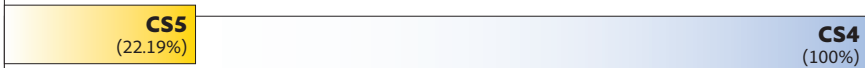
64-bit サポート : 別のレポートで取り上げている 64-bit アーキテクチャのサポートは、デジタル画像編集ワークフローおよびビデオ制作ワークフローに飛躍的な生産性の向上をもたらします。

主なベンチマークの結果 : 21 の機能の生産性ベンチマークの平均



このプロジェクトのために行った全部で 21 の機能の生産性ベンチマークの平均を表すグラフ。
基準値 : Adobe CS4 を使用した場合の平均時間。短いほど良い。

主なベンチマークの結果 : 最も良い結果 (Photoshop CS5、コンテンツに応じた塗り)



このプロジェクトのために行った 21 の機能の生産性ベンチマークの最高結果を示すグラフ。
基準値 : Photoshop CS4 を使用した場合のベンチマーク結果。短いほど良い。

目次

はじめに.....	2
Photoshop CS5 : パフォーマンスと生産性の拡大	3
Illustrator CS5 : クリエイティブな描画ツールの生産性	5
InDesign CS5 : 日常のデザインワークの効率化	7



はじめに

このレポートについて

このレポートは、Pfeiffer Consulting 社が Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の委託に基づいて実施した市場別ベンチマークプロジェクトの調査結果をクリエイティブプロフェッショナル向けアドバイツールの最新版に関する技術分析と併せて報告するものです。

生産性の測定は Pfeiffer Consulting の生産性ベンチマーク調査手法に基づいたものを使用し、Adobe Creative Suite® 5 と以前のバージョンのワークフローの生産性を比較しました。ワークフローのベンチマークテストおよび効率性測定の結果をもとに、Photoshop CS5、Illustrator CS5、InDesign CS5 などの主要 Adobe Creative Suite アプリケーションに採用された機能が生産性に及ぼす影響を分析しています。

Adobe CS5 Production Premium のパフォーマンスと生産性、および 64-bit サポートが Photoshop のパフォーマンスに及ぼす影響に関する調査については、それぞれ別のレポートで取り上げています。生産性ベンチマークの調査手法について詳しくは、4 ページ左欄の調査方法またはベンチマークレポート完全版 (同欄を参照) をご覧ください。

このレポートの構成

このレポートは 4 つのセクションで構成されています。

Photoshop CS5：パフォーマンスと生産性の向上 (3 ページ)。このレポートの最初のセクションでは、Photoshop CS5 の主な生産性向上機能を分析します。

Illustrator CS5：クリエイティブな描画ツールの生産性 (5 ページ)。2 番目のセクションは、Illustrator CS5 の自由な線幅の描線などの機能が生産性に及ぼす影響について取り上げています。

InDesign CS5：日常のデザインワークの効率化 (7 ページ)。3 番目のセクションは、最新版 InDesign に採用されているいくつかの生産性向上機能に焦点を当てています。

Pfeiffer Consulting 社について

Pfeiffer Consulting は、コンテンツプロバイダーおよびテクノロジープロバイダーの皆様へ、独自性の高いハイレベルな国際マーケット情報と戦略的コンサルティングを提供することを使命としています。

Pfeiffer Consulting は、数々の専門的研究報告を発表しているほか、テクノロジーおよびコンテンツ業界のトレンドに関するオンラインリソースとして Pfeiffer Report on Emerging Trends and Technologies を発行しています。

詳しくは、www.pfeifferconsulting.com をご覧ください。

主な調査結果

- ▶ Photoshop CS5 では、ベンチマークを行ったコンテンツに応じた塗りなどの機能を備え、**以前のバージョンより生産性が大幅に向上しました。**
- ▶ Illustrator CS5 の生産性向上機能には、自由な線幅の描線、高度な矢印作成、スピーディなパスの結合などがあり、**作業効率の著しい向上をもたらしています。**
- ▶ InDesign CS5 の新しい選択ツールを使用すると、以前のバージョンよりも**かなりスピーディにオブジェクトを編集**できます。また、グリッド化ツールは、複数のエレメントからなるデザインの作成をスピードアップします。

Pfeiffer Consulting 社について

- ▶ Pfeiffer Consulting は、**独立技術研究機関およびコンサルティング業者**として、パブリッシング、デジタルコンテンツ制作、ニューメディアにおけるプロフェッショナルのニーズに焦点を絞った事業を展開しています。
- ▶ **Adobe Creative Suite 5 ベンチマークレポート完全版**は、www.pfeifferreport.com でダウンロードしてください。

Pfeiffer
Consulting
01001011

Photoshop CS5 : パフォーマンスと生産性の向上

主なポイント

- ▶ コンテンツに応じた塗り機能は、以前のバージョンの**ほぼ 5 倍レタッチ作業**を高速化します。
- ▶ 開いている Photoshop ドキュメントにドラッグ/ドロップで画像を追加などのシンプルな生産性向上機能は、画像編集ワークフローにおいて一般的な作業の**生産性を 3 倍以上**に高めます。
- ▶ Photoshop CS5 では、非常に簡単な手順で画像の角度補正を行えるようになり、**以前のバージョンのほぼ 4 倍の生産性が実現**しました。

絶え間ない変革

この数年間にデジタル画像編集ほど進化を遂げた分野はないでしょう。デジタル画像編集の劇的な変化について特筆すべきは、それがユーザー側とアプリケーション側の両方で同時に起こり、消費者市場とプロフェッショナルなクリエイティブツールについての認識を変えつつあるということです。

Photoshop は、常にこうした変革の中核を務め、バージョンアップのたびに、新たな面を切り拓き、ベテランクリエイターの創造性を刺激しながら時間のかかる反復作業の手間を軽減することを期待されるという課題に取り組んできました。アドビのこれまでの功績から Photoshop には熱狂的なファンがいます。当面 Photoshop CS5 のプロフェッショナルスタンダードとしての地位はゆるがないでしょう。

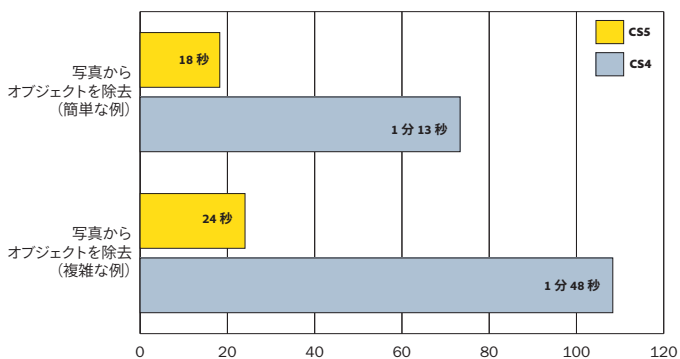
Photoshop CS5 : 主な生産性向上機能

どんなソフトウェアでも最も興味を集める機能は、新たな技術を開拓し、同時にユーザーの生産性を高めるものです。Photoshop の**コンテンツに応じた塗り**はまさしくそういう機能です。従来のコピースタンプやレタッチよりもずっと確かな方法で、選択範囲を周囲の背景からの要素で自動的に塗りつぶします。当然のことながら、生産性に及ぼす効果は絶大です。コンテンツに応じた塗りは、締め切り厳守の制作ワークフローにおいて非常によく使われる機能になるでしょう（下のグラフを参照）。

Adobe Photoshop CS5 : 主なベンチマークの結果

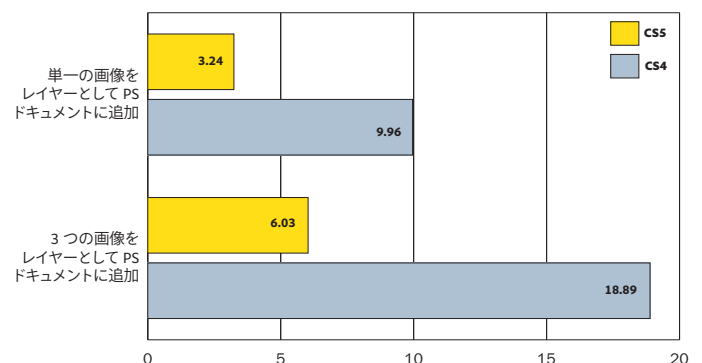
Photoshop : コンテンツに応じた塗り vs. 手作業によるコピースタンプ/補正

時間は秒単位。短いほど良い。



Photoshop CS5 : 画像をレイヤーにドラッグ/ドロップ

時間は秒単位。短いほど良い。



コンテンツに応じた塗り機能は、選択範囲を画像のテクスチャで置き換えます。テクスチャのカラーに基づいてピクセル単位でインテリジェントに塗りつぶすことで、リアリティのある仕上がりが得られます。手作業よりも生産性は格段にアップします（左のグラフを参照）。

Photoshop CS5 では、開いているドキュメントに画像のドラッグ/ドロップを行い、その画像をスマートオブジェクトとしてファイルに統合できるので、以前のバージョンよりも作業効率が飛躍的に上がりました（右のグラフを参照）。

調査方法

このレポートは、Pfeiffer Consulting 社がアドビ システムズ社の委託を受けて実施した技術分析および市場別ベンチマークテストの調査結果に基づき、Pfeiffer Consulting 独自の調査および技術分析プロジェクトの結果を加味したものです。

生産性の測定

Pfeiffer Consulting は、Adobe Creative Suite 5 のいくつかのアプリケーションに採用された生産性向上機能を以前のバージョンの機能と比較しながら、一般的なクリエイティブワークフローの生産性および効率性について市場別に詳しくベンチマークテストを実施しました。

生産性ベンチマークテストの実施方法

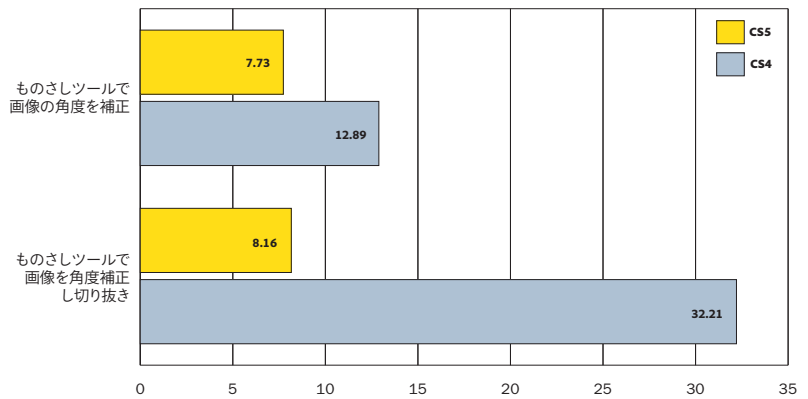
セグメント別ワークフロータスクと課題を繰り返し可能な手順で明確に定義し、これを経験豊かなプロフェッショナルが実施する状況を仔細にモニタリングしました。

現実に近い結果を得るため、ベンチマークにはスクリプトを使用しませんでした。

このレポートの記述内容はすべて事実であり、個別に検証可能です。ベンチマーク調査方法、システム構成、全体的なベンチマークテストの説明と結果についての詳しい考察は、『Adobe Creative Suite 5 ベンチマークレポート』完全版を www.pfeifferreport.com でダウンロードしてください。

Photoshop：画像の角度補正

時間は秒単位。短いほど良い。



Photoshop CS5 では、画像の角度補正の大幅な簡易化が実現。いくつかの不要な手順が省かれ、以前のバージョンでは 30 秒以上かかっていた処理を 8 秒強で行えるようになりました。

このプロジェクトの対象となったその他の新しい生産性向上機能はそれほど効果的ではないように見えるかもしれませんが、ワークグループ全体の効率に及ぼす効果は相当なものでしょう。これに当てはまるものとして、Adobe Bridge、新登場の Adobe Mini Bridge、およびオペレーティングシステムウィンドウから Photoshop ドキュメントの**新規レイヤーに画像を直接ドラッグ/ドロップする機能**が挙げられます。これは、デザイナーが複雑な合成に必要なすべての要素を集める際に特に便利で、それらの要素を個別に開く代わりに、スマートオブジェクトとして対象ファイルに直接組み込むことができます。このプロジェクトのベンチマークテストでは、画像のドラッグ/ドロップは、Photoshop CS4 の 2 倍から 3 倍の速さで同様の結果を得ることができました (3 ページのグラフを参照)。

画像の角度補正も同様の例です。以前のバージョンでは、ものさしツールで目的とする角度を測って画像を回転させ、余分な背景部分を切り抜くという手順を要していた作業を、ボタンのクリック 1 つで行えるようになり、30 秒を超えていた所要時間が 10 秒以下に短縮されます (3 ページのグラフを参照)。

このプロジェクトのベンチマークテストの対象となった生産性向上機能以外にも、Photoshop CS5 にはクリエイティブプロフェッショナルの作業効率を上げる新機能が多数採用されています。

不要なカラーの自動除去：選択範囲の作成は、デジタル画像の合成やレタッチにおいて最も重要で最もやっかいな作業の一つですが、Photoshop CS5 では、このプロセスにいくつかの新機能を追加しています。不要なカラーの自動除去機能では、背景の色かぶりがあるオブジェクトの選択範囲から不要なカラーが自動的に除去されるので、選択要素を別の背景にシームレスに統合するのが簡単になります。

パペットワープツール：画像のパーツを簡単にワープしたりゆがめたり、不自然に変形した印象を与えることなく画像内で要素の配置を変える新機能。

Adobe Repoussé：以前の Photoshop では 3D 機能が限られていましたが、最新版では、2D と 3D の編集の境界がかつてないほど曖昧なものになっています。この機能は、創造的な感動を生むだけでなく、複雑な画像合成における 3D 要素の統合を大幅に効率化します。

Adobe Camera Raw：近年、デジタルカメラで撮影した RAW 画像の効率的な処理は、生産、品質の両面で画像編集ワークフローに不可欠となっています。Photoshop CS5 では、高品質のノイズ除去や高度なシャープ処理、大量のファイルのバッチ処理など、重要な処理の選択肢をさらに広げることで、以前のバージョンよりも一段と機能が拡張されています。

All texts and illustrations © Pfeiffer Consulting 2010.
書面による事前承諾のない複製は禁止されています。
詳しくは、research@pfeifferreport.com にお問い合わせください。

このレポートに掲載されているのは、情報提供のみを目的とした評価データおよび一般的シミュレーションのデータです。この情報は、既存の会社またはワークフローの状況について、特定の生産性の調査や算定を提供するためのものでも、またそれに代わるものでもありません。Pfeiffer Consulting は、このレポートに掲載されている情報、助言、提言の使用についても、これに基づいて行われる行動についても、一切の責任を拒否するものであり、このレポートまたは関連文書で提供しているデータに基づく購入、装備、投資その他の判断および事業について責任を負うことはできません。

Adobe, Acrobat, Creative Suite, Flash, Illustrator, InDesign and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

Illustrator CS5 : クリエイティブな描画ツールの 生産性

主なポイント

- ▶ 「美しい描線」機能が充実した Illustrator CS5 では、イラストやデザイン内でパスの操作を効率良く行えるので、**生産性が大きく向上します**。
- ▶ Illustrator CS5 では矢印の編集手順がかなり簡易化され、このプロジェクトのワークフローのベンチマークテストにおいて、従来の **3 倍の生産性向上** が確認されました。
- ▶ Illustrator CS5 で複数のパスを連結する操作は 1 ステップで行えるので、以前のバージョンに比べ **3 倍以上スピーディ** だという結果が出ました。

進化し続けるベクトルグラフィックソフトウェア

画像処理における Photoshop と同様、Adobe Illustrator はグラフィックデザインとベクトル描画の中心的役割を担い、長年にわたり多大な進化を遂げてきました。Photoshop がデジタル写真という拡大の一途をたどる技術とその無数のアプリケーションを扱う必要があるのに対し、Illustrator は複雑さを増す Web グラフィックとベクトル描画の世界、さらにはダイナミックメディアがグラフィックデザインのプロセスにもたらすかつてないほど厄介な問題に対処しなければなりません。

言い換えれば、Illustrator はグラフィックデザインと制作の課題すべてに取り組み、その一方でデザインワークフロー全体の作業負荷を減らす必要があるのです。1980 年代半ばに誕生してから 15 回目のメジャーリリースにあたる Illustrator CS5 は、クリエイティブかつ作業効率に優れた多数の新機能を備えています。

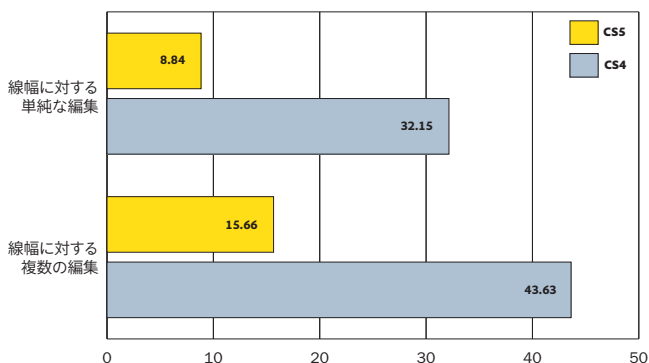
Illustrator CS5 : 主な生産性向上機能

創造性と作業効率の両面において最も注目すべき新機能に挙げられるのは、**美しい描線**と総称されるオプション一式です。簡単に言うと、これらのツールおよび機能は、ベジェ曲線という Illustrator の定番パスをもっと手描きに近い自然な描線に仕上げることを目的としています。新しい**線幅ツール**を使用すると、デザイナーはクリエイティブの可能性を広げるだけでなく、パスのアウトラインをインタラクティブに編集できます。このプロジェクトのベンチマークの結果が示すように、グラフィックデザインの微調整を大幅にスピードアップするツールです (5 ページのグラフを参照)。

Illustrator CS5 : 日常的な描画作業の生産性

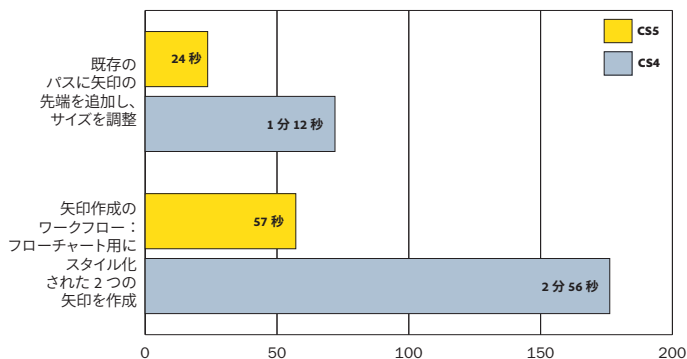
Illustrator : 美しい描線

時間は秒単位。短いほど良い。



Illustrator : 矢印の操作 :

時間は秒単位。短いほど良い。



Illustrator CS5 には、パスや描線を扱う非常に充実した機能が備わっています。新しい線幅ツールを使用すると、背面のパス上のどのポイントでも描線の幅をインタラクティブに編集できるので、複雑なグラフィックデザインを一段とすばやく作成できます (左のグラフを参照)。

また、矢印とその描線を正確にコントロールできる機能も備え、インフォメーショングラフィックスの作成を大幅にスピードアップします (右のグラフを参照)。

Illustrator CS5：これまでにない描画ツール

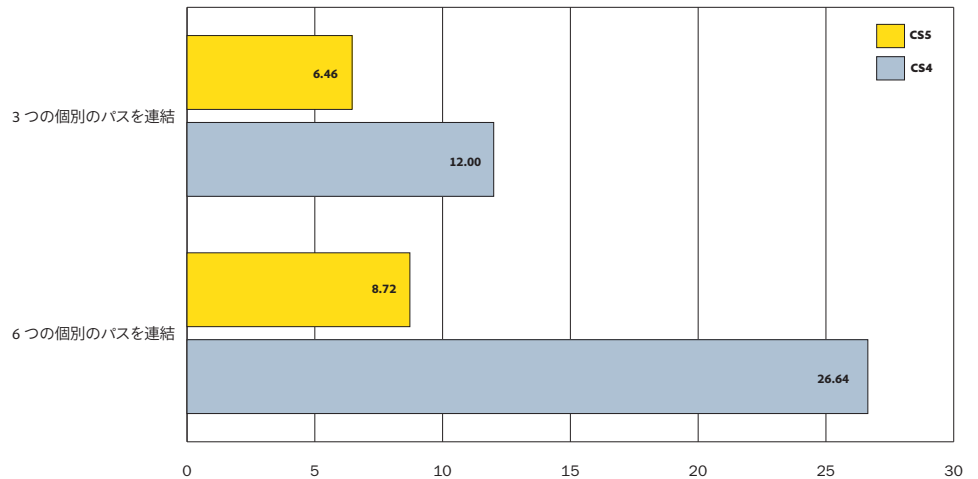
生産性の大幅な向上は、非常に簡単で頻繁に繰り返される操作と関連付けることができます。

以前のバージョンの Illustrator では、オープンパスの終点を連結するという作業は、個別に行わなければならない、連結するためにパスの終点を調整することもしばしば必要でした。

Illustrator CS5 では、複数のパスを対象とする場合でも、この作業をワンステップで行えるので、作業効率が格段に上がります。

Illustrator：パスの連結

時間は秒単位。短いほど良い。



美しい描線には、特にフローチャートやインフォメーショングラフィックスなどで生産性を大きく向上させる**精密な矢印**もあります。今回のベンチマークテストでは、特定のデザイン要件に合わせて矢印を編集する作業にこの新機能を使うと、以前のバージョンの Illustrator よりも3倍以上速いという結果が出ました。

ベンチマークの対象となった3つ目の機能はそれほど目立たないかもしれませんが、全体的な作業効率の向上にかなりの効果を及ぼします。以前のバージョンの Illustrator では、**個別のパスの連結**は、数ステップの操作を繰り返して1つずつ行う必要がありました。Illustrator CS5はこの操作を大幅に効率化しました(6ページのグラフを参照)。

Illustrator CS5の生産性向上機能は、ここで紹介された3つの例だけでなく、より直感的な操作が可能になった一般的なツールから描画方法を一新する**絵筆ブラシ**、さらには新搭載の**遠近グリッドツール**(このページの右欄を参照)まで幅広くそろっています。

複数のアートボード：Illustrator CS4で採用されたこの機能は、CS5でさらに強化され、多数のアートボードの操作をより便利にすばやく行えるようになりました。個々のアートボードに名前を付けたり印刷や書き出しができるだけでなく、複数のアートボードを印刷する際に、適切な向きに出力できるよう自動的に回転します。

シェイプ形成ツール：シンプルな要素から複雑なシェイプを作成することは、昔も今も変わらず Illustrator の描画に必須のテクニックですが、洗練されたシェイプを作成するには慎重な計画が必要です。シェイプ形成ツールなら、非常に直感的な操作で、複雑なシェイプの編集を簡単に行えます。

ピクセルグリッドに整合：Web プロジェクトやモバイルコンテンツなど、低解像度の出力チャネル用のグラフィックスを作成するのに欠かせないこの機能は、出力解像度のピクセルグリッドにグラフィックスとテキストを自動的に整合します。これは、小さくても非常に読みやすいテキスト要素を作成する場合に特に重要です。

高度なブラシコントロール：美しい描線機能の一環として、Illustrator CS5では、描線の操作を従来よりも大幅に効率化する新しいコントロール機能もいくつか採り入れています。

ブラシの伸縮制御機能を使用すると、ブラシストロークの比率を維持して描線のサイズを変更する必要があるエリアを設定できます。**ブラシの角の制御機能**は、特定のデザインを様々な角度で使用できるようにすることで、複雑な描線デザインの処理機能を拡張します。

遠近描画

デザインやイラストの制作プロジェクトでは、多くの場合、2点または3点透視図法を用いて遠近感のある描画を行う必要があります。これは、以前のバージョンの Illustrator では非常に手間のかかるプロセスで、デザイナーが手作業で遠近グリッドを作成し、デザイン要素にゆがみを適用して遠近感を持たさなければなりません。

Illustrator CS5では、このプロセスをもっと直感的に行えるようになりました。新搭載の遠近グリッドツールを使用すれば、**非常に洗練された1点、2点または3点パースを作成および編集**できます。デザイン要素は、透視平面に直接描くことも、平面デザインとして作成して後からグリッドに配置することも可能です。要素を**グリッド内で移動させながらインタラクティブで適切な遠近感を持たせる**ことや、必要に応じて次元の状態に戻すこともできます。

例えば店舗の建築シミュレーションなどをデザインする際に、この新機能はたいへん便利です。**Illustrator CS5の遠近グリッドツールは、インタラクティブなドキュメントのデザインやユーザーインターフェイスデザインに大きな効果を発揮するようになることでしょう。**

InDesign CS5 : 日常のデザインワークの効率化

主なポイント

- ▶ InDesign CS5 には再設計された選択ツールが採用されており、これによってデザイン要素とそのコンテンツの拡大・縮小、回転、切り取りおよびサイズ変更に必要な操作手順が減るため、結果として、**レイアウトプロセスが効率化します。**
- ▶ InDesign CS5 の新しい段抜き機能により、**複数の段にまたがるテキストのレイアウトが従来よりかなり簡単に。**いくつかの段にまたがるテキストを作成したり、複数の段の範囲を1段の文書に配置する作業が、最新版では大幅にスピードアップします。
- ▶ InDesign CS5 に新たに搭載された間隔ツールは、複数並べられたオブジェクトを扱う場合の**レイアウト作業を効率化**します。

ページ指向のデザインを 21 世紀に

オンラインの世界では、インタラクティブコンテンツがここ 2~3 年急速に拡大してきましたが、ページ指向のデザインは、マーケティングやコンテンツ制作において相変わらず重要な役割をはたしています。

重要な情報を伝達する場合、印刷文書に代わる選択肢はありませんが、インタラクティブコンテンツに関しても、日々制作される大量のコンテンツに差をつけるためには、洗練されたページ指向のデザインがますます重要になっています。

そうした中 InDesign は、すべてのデザイナーがインタラクティブ性と複数の出力チャンネルについて考える必要がある時代の中核を担うページデザインツールを新たに考案し、その一方で、既存のツールの生産性を改善して、制作ワークフローに求められるかつてないほど厳しい効率に対応するという、避けて通れない課題に向き合ってきました。

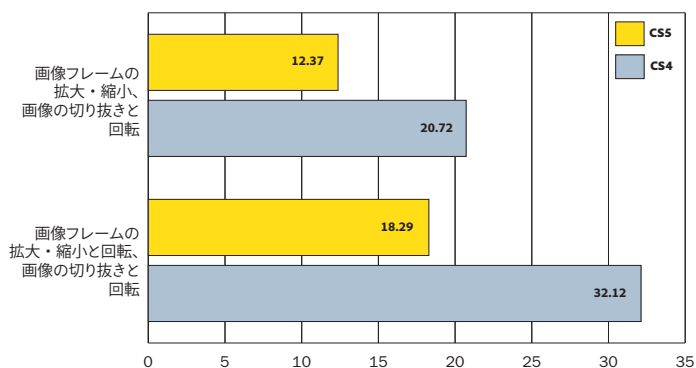
InDesign CS5 の主な生産性向上機能

インタラクティブコンテンツを作成するために拡充されたインタラクティブな機能は、間違いなく InDesign CS5 の最も重要な新機能です。以前のバージョンにもインタラクティブな機能は用意されていましたが、最新版では、従来型のデザイナーがインタラクティブな創造性を思い切り発揮できる環境が整っています (8 ページ右欄を参照)。

InDesign CS5 : 新しい選択ツールが作業効率にもたらす効果

InDesign CS5 : 選択ツール

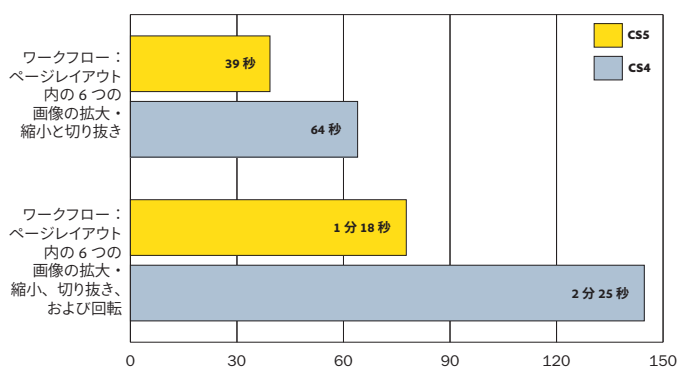
時間は秒単位。短いほど良い。



InDesign CS5 に新たに採用された選択ツールでは、配置された画像のサイズ変更や回転、さらには切り抜きといった編集作業を、ツールの切り替えなしで行えます (左のグラフを参照)。

InDesign CS5 : 選択ツール — ワークフローのベンチマークテスト

時間は秒単位。短いほど良い。

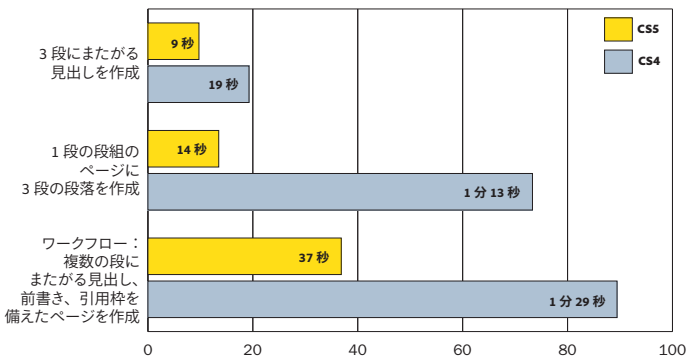


この新しい選択ツールがもたらす生産性の向上は、ワークフローのベンチマークテストで顕著に示されており、ページレイアウト中の6つの画像の拡大・縮小、切り抜き、回転に要する時間は、InDesign CS5 ではほぼ半減しています (右のグラフを参照)。

InDesign CS5：基本のデザインプロセスを加速

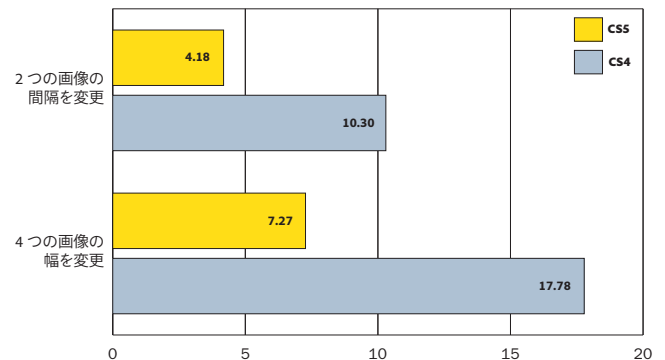
InDesign CS5：段抜き／段落

時間は秒単位。短いほど良い。



InDesign CS5：間隔ツール

時間は秒単位。短いほど良い。



複数の段組のページレイアウト内でいくつかの段にまたがるテキストを作成するには、通常複雑で手間のかかる作業が必要です。InDesign CS5は、新たに段を段落の属性としてサポートし、複数の段組のページレイアウト作業を大幅にスピードアップします（左のグラフを参照）。

間隔ツールも InDesign CS5 に導入された画期的な機能です。操作は驚くほど簡単。デザイン要素そのものではなく、要素を隔てる間隔を操作するので、デザインプロセスは効率化するだけでなく、より直感的になります。（右のグラフを参照）。

ただし、従来のデザイン作業に対して生産性や効率性に関する徹底した見直しが行われなかったと言っているわけではありません。今回のベンチマークテストでは、複数の段組のテキストを扱うデザイン作業に大変便利な**段抜き機能**、再設計された**選択ツール**、適切な名前が付けられた**間隔ツール**という InDesign CS5 に採用された3つの主な生産性向上機能を取り上げました。

複数の段をまたぐテキスト要素の作成作業には、以前ならいくつかの地味な手順を要していましたが、**段抜き**を使用するとかなり簡単になります。逆に、段分割を行うと、複数の段のテキスト範囲を、例えば本などに簡単に挿入できます。この機能は非常に大きな生産性の向上をもたらします（7ページのグラフを参照）。

InDesign CS5 の再設計された**選択ツール**には、以前ならツールを切り替えないと使えなかったいくつかの機能が統合されており、ツールを切り替えなくても、テキストや画像のフレームの拡大・縮小や回転、配置された画像の切り取りや回転を行えるので、作業効率が明らかに上がります（8ページのグラフを参照）。

間隔ツールは、デザイン要素ではなく、それらを分ける間隔を操作できるようにすることで、ページデザインプロセスにまったく新しいアプローチをもたらします。これにより、例えばページ上で同一の間隔を共有するいくつかの画像を一括して拡大・縮小するなど、作業が大幅にスピードアップします（8ページのグラフを参照）。また、間隔ツールは、コンピューターベースのデザインプロセス自体にもメリットをもたらす、プロフェッショナルの創作意欲を刺激します。

InDesign CS5 には、他にもデザインプロセスを様々な面で変える画期的な機能が備わっています。

複数のページサイズ：デザインプロフェッショナルが長い間待ち望んでいた最大の変更点は、同一のページレイアウト内でサイズの異なるページを作成する機能です。これは、複数のページからなる折りたたみのチラシなどを作成する際に欠かせません。

グリッド配置：ほとんどのデザインツールにおいて、グリッドの作成は手間のかかる複雑な作業で、1つの要素を描いてから何度かそれを複製する必要があります。InDesign CS5 なら、テキストボックスやフレーム、画像、さらには単純な線でも、複数のコピーからなるグリッドとして描けます。行・列方向のコピーの数、および個々の要素を隔てる間隔はインタラクティブに調整が可能です。間隔ツールと併用すれば、この機能は、複数の要素からなるポスターやカタログなどの複雑なコンテンツの作成をこれまでよりも大幅にスピードアップします。

PDF 書き出し：InDesign では、PDF 書き出し機能も強化されました。生産性の点では、複雑な PDF ファイルをバックグラウンドとして書き出せば、PDF ファイルが書き出される間にも作業を続けることができるので、制作ワークフローの重大なボトルネックが取り除かれます。

デザイナーのための インタラクティブティ

これまで、インタラクティブなデジタルコンテンツといえば、Web デザイナー、Flash エキスパート、プログラマーといったスペシャリストの領域でした。しかし現在、従来型のデザイナーに対して、旧式のデザインツールではできなかった方法でインタラクティブティに関するノウハウやアイデアを活かすことを求める需要が高まりつつあります。

InDesign CS5 は、以前ならエキスパートやプログラマーの手を借りていたマルチメディアプレゼンテーションやインタラクティブマガジンなど、**多くのインタラクティブコンテンツ制作のクリエイティブワークフローを一新**します。デザイナーは**パスベースのアニメーション**を作成したり、Flash Professional で作成された**アニメーションプリセット**を使用することができます。**オブジェクトステート**はインタラクティブコンテンツの制作に力を発揮し、**タイミングパネル**を用いれば、タイムラインを必要とすることなくイベントをコントロールできます。

InDesign で作成されたインタラクティブコンテンツは、SWF ファイルに書き出して配信したり、Flash Professional でさらにきめ細かく編集することができます。

効率性と生産性の点では、InDesign の新しいインタラクティブツールにより、インタラクティブコンテンツのクリエイティブコントロールを維持したまま、**これまでより短時間の作業でリッチメディアコンテンツを制作することが可能になります。**